【農林水産研究指導センター　研究Now】vol. 128　　令和4年11月15日発表

養殖ブリの端境期出荷に向けた8月人工種苗生産の取組

【研究のポイント】

全国第2位の生産量を誇る養殖ブリは、春にモジャコ（稚魚）を導入し、２年目の秋頃から３年目の春頃を中心に出荷します。しかし、４～６月は、３年目のブリは産卵の影響を受けて品質が下がり、２年目のブリは出荷サイズに満たないため、出荷量が落ち込む「端境期」となっています。

そこで・・・

この「端境期」に高品質な養殖ブリを安定出荷できるよう、本研究では、親魚の生育環境の制御を行うことで天然の産卵期から約半年ずらした8月採卵の人工種苗を生産し、出荷端境期の安定出荷体制の確立を目指します！

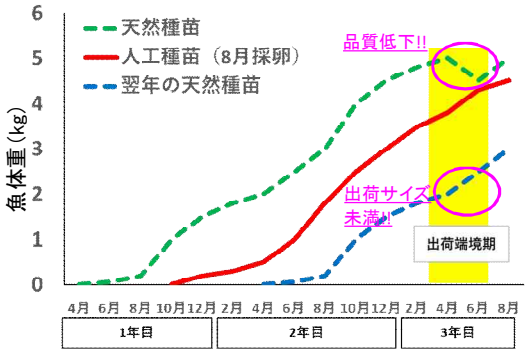


図1．８月採卵人工種苗の出荷端境期利用イメージ

《研究内容》
①親魚養成、②採卵、③種苗生産、④現地養殖試験を実施、8月採卵種苗の有効性を検証します。

【研究の成果】

水産研究部での取組

①親魚養成　親魚が8月に産卵するよう2020年12月から約7ヶ月間、日長条件と水温を屋内水槽でコントロールしました（図2）。
②採卵　親魚養成の結果、2021年8月5日に13.6万粒の採卵に成功しました。
③種苗生産　5cmサイズの種苗を5,600尾生産しました。

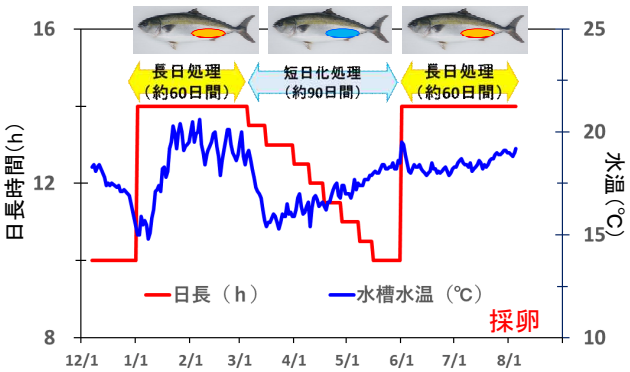
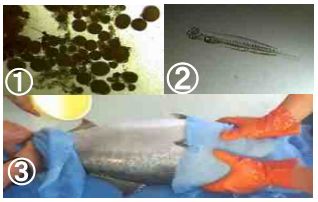


図2．日長条件と水温コントロールの状況



①8月に成熟し卵径が最大化した卵巣内部
②ふ化仔魚
③採卵作業

採卵の状況

生産した種苗

養殖現場での取組

④現地養殖試験　生産した種苗を2021年10月22日から佐伯市蒲江名護屋地区の養殖場に収容し、現地養殖試験を開始しました。半年後の4月時点での魚体重は約900ｇまで成長し、歩留まりは80%以上でした（図3）。

現地養殖試験の状況

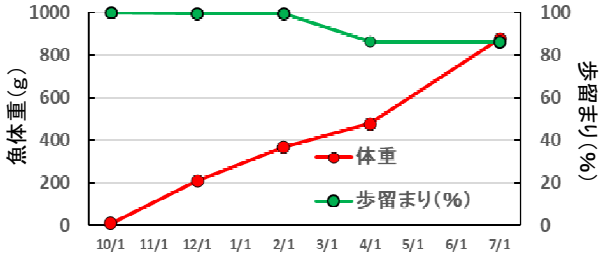


図3．現地養殖試験の成長と歩留まり

今後の予定

成長及び成熟状況について追跡調査を行い、2023年の端境期に出荷を迎える予定です。

【生産者の声】

冬場に大きな死亡もなく、順調に成長しています。
初めての試みなので、成長や成熟など不安な面もありますが、流通業者からも要望の強い、「端境期」での出荷を期待しています。

渡邉水産有限会社　代表取締役社長　渡辺満晴

【連絡先】

担当：　水産研究部　資源増殖チーム
TEL　：　０９７２－３２－２１５５（問い合わせは企画指導担当へ）
住所：佐伯市上浦大字津井浦１９４番地６